



報告期間: 令和4年9月～令和7年3月

特定非営利活動法人

ユニバーサル就労ネットワークちば



Work! Diversityプロジェクト (ダイバーシティ就労) とは

Supported by

THE NIPPON
FOUNDATION

「働きづらさ」をテーマにした日本財団による就労支援プロジェクト

働くこと、働き続けることを実現し喜びを感じてもらえる支援と労働力確保、社会保障の軽減にもつなげたい。

そんな発想でこの国の未来を変えていくプロジェクトが
「WORK! DIVERSITY」

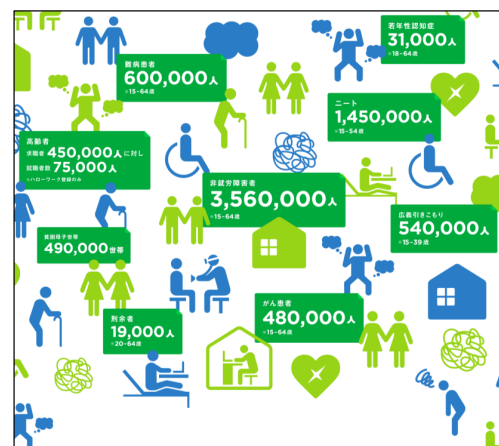
障害者手帳を持たない多様な就労困難者に対し、既存の就労支援システムを活用し、新たな支援モデルの構築を目的。

働きづらさを抱える方とは

2018年、日本財団の調査により、引きこもり、ニート、ミッシングワーカー、刑余者、若年認知症、難病、各種依存症、

がん患者、非就労障害者など、生きづらさ・働きづらさのある方々がのべ1500万人におよぶことが判明しました。

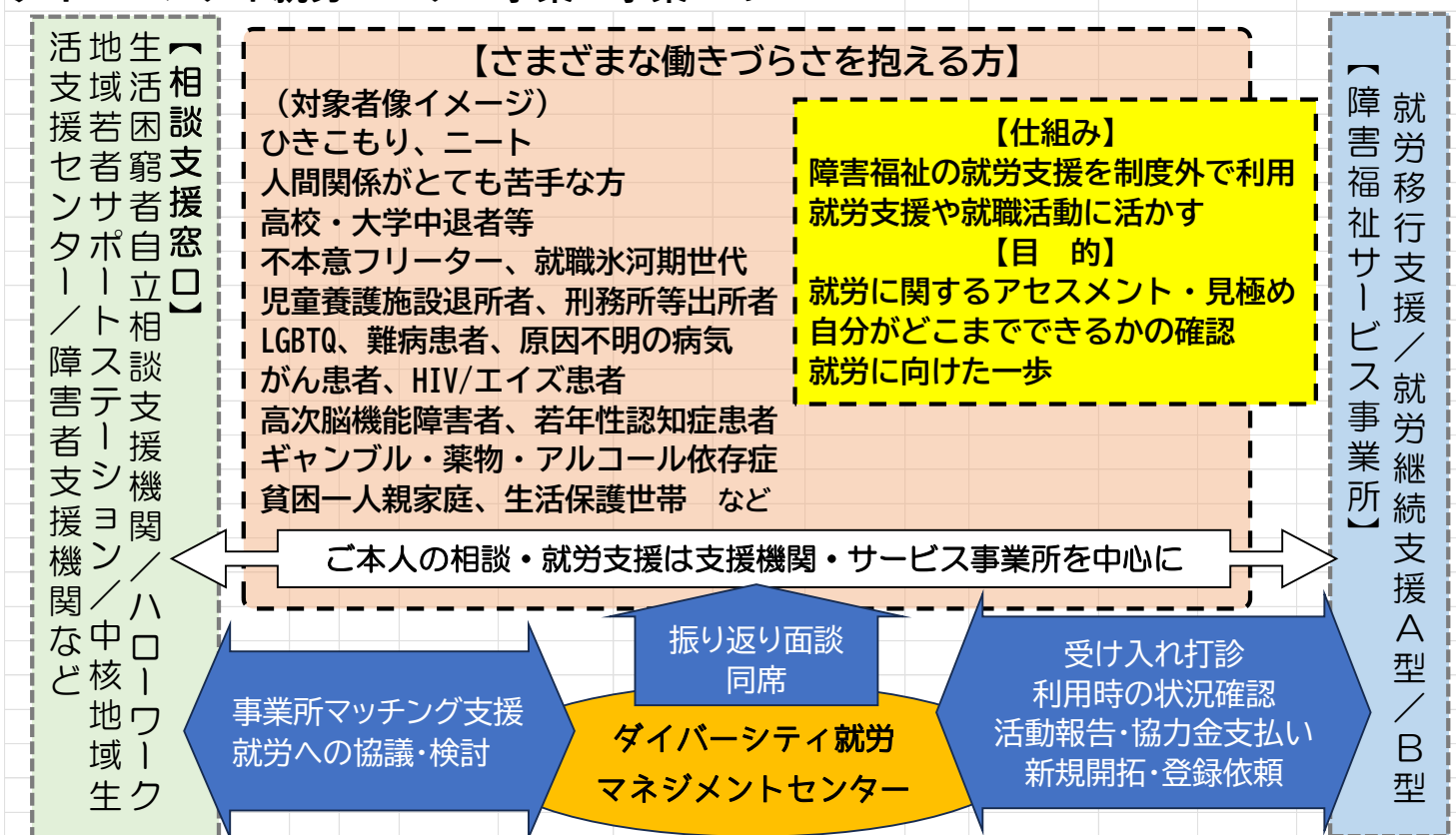
中にはすでに働いている方、重複した要因にわたる方がありと推定され、その実数は、約600万人とされます。



■千葉県におけるダイバーシティ就労モデル事業概要■

対象者	様々な働きづらさを抱える方で、障害福祉サービスが受けられない方で、働きたいという意思のある方 ※障害者手帳や障害福祉サービス受給者証のない方、取得予定のない方が対象となります
実施場所	就労移行支援事業所、就労継続支援（A型・B型）事業所
利用期間	原則、1ヶ月～6ヶ月間
支援体制	本人・サービス事業所・伴走する支援機関と一緒に実施
利用人数	年間45～50名程度を想定
協力金	体験：5,000円／日、本利用7,000円／日 ※協力金は、受け入れ事業所へ実績をもとにお支払いするものです
相談員体制	事業責任者1名、相談員2名
事業概要	令和4年9月よりモデル事業を実施。

ダイバーシティ就労 モデル事業の事業スキーム





ダイバーシティ就労 利用の流れ



相談 受付

- ・ご本人または支援機関よりご連絡下さい。
- ・「仕事が続かない」「仕事が決まらない」「働く自信がない」「働くための訓練を受けたい」「体調不良などうまく働けない」など

初回 面談

- ・ダイバーシティ就労担当との面談
- ・お住まいの地域の支援機関・支援者にも同席の上、面談をします
- ・希望する内容を確認し、事業所の見学調整などを進めます

見学

- ・登録された障害福祉サービス事業所にて、利用に向けた見学をします
- ・見学後、体験利用を行うかどうかを検討します

体験

- ・原則、3日間～5日間ほど体験を行います
- ・体験終了後、振り返り面談を行い、本利用するかを検討します

本利用

- ・目標と活動内容、予定利用期間を確認し、活動計画を作成します
- ・各事業所等との利用契約を結びます

振り 返し

- ・ご本人、支援機関、事業所、ダイバーシティ就労担当の4者で振り返ります（モニタリング）
- ・活動状況を確認し、今後の方針を決めます

利用 終了

- ・就職が決まるなど、進路が決まった場合は終了となります。
- ・「仕事が決まった」「自分に合った働き方がみつかった」「自分なりのキャリアプランができた」
- ・利用期間満了や利用希望がなくなった場合も終了となります

□■ 実施するサービス事業所の特徴 ■□

就労移行支援事業所

- 支援プログラム（作業や座学など）から、自分の適性や強み興味関心を見つけ出す
- 資格取得、企業見学、職場体験等を通して、具体的な就職活動へのステップを踏む
- 賃金は発生しません

就労継続支援A型

- 一般就労に近い形でトレーニング
- 就労時間は短い（4、5時間程度）
- 雇用契約を結ぶ（平均月収8万円）
 - ・ PC作業、ネット出品の準備
 - ・ ボールペン組み立て
 - ・ 倉庫作業
 - ・ 宅配弁当調理補助 など

就労継続支援B型

- 短時間から始められる
- 工賃が支給（平均月収1.5万円）
- 雇用契約は結ばない
 - ・ 内職（箱の組み立て、袋詰め）
 - ・ 農作業（野菜の袋詰め、草刈り）
 - ・ PC作業（データ入力）
 - ・ 接客業（カフェ等）、調理補助 など

■ダイバーシティ就労と連携している支援機関(一部)■

生活困窮者自立相談支援機関(自立相談・就労準備支援)

千葉県中核地域生活支援センター

地域若者サポートステーション

福祉事務所・被保護就労支援事業所

障害者基幹相談支援センター

千葉市ひきこもり地域支援センター

千葉市子ども・若者総合相談センターLink

ハローワーク専門援助部門(障害・長期療養など)

重層的支援体制整備事業窓口

行政窓口

◇◆◇ これまでの実施状況の概要 ◇◆◇

相談問合せ

360件

2022年度 140件
2023年度 123件
2024年度 97件

初回面談

193名

2022年度 72名
2023年度 70名
2024年度 51名

見学

228件

2022年度 78件
2023年度 77件
2024年度 73件

体験

154件

2022年度 50件
2023年度 53件
2024年度 51件

本利用

115名

2022年度 44件
2023年度 38件
2024年度 33件

【利用機関種別】

就労移行 28名
就労継続A型 38名
就労継続B型 43名
一般企業 6名

◇◆◇ 利用終了者(103名)の概要 ◇◆◇

**就労決定
23名**

2022年度 2名
2023年度 10名
2024年度 11名

正社員 5名
パート 18名
(うち退職者3名)

**福祉サービス利用
52名**

2022年度 6名
2023年度 30名
2024年度 16名

就労移行 12名
就労継続A型 19名
就労継続B型 21名
(うち利用後就労者7名)

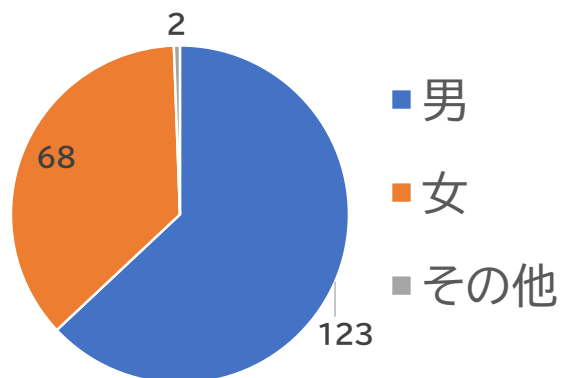
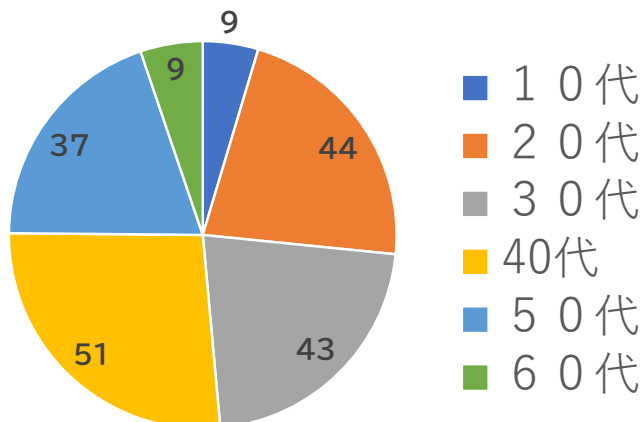
**その他
28名**

2022年度 3名
2023年度 11名
2024年度 14名

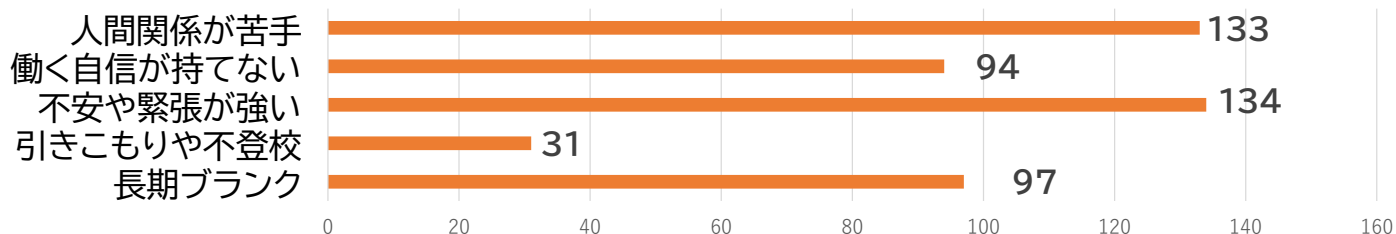
就職活動 13名
その他 15名
(うち就労者6名)



相談者の概要



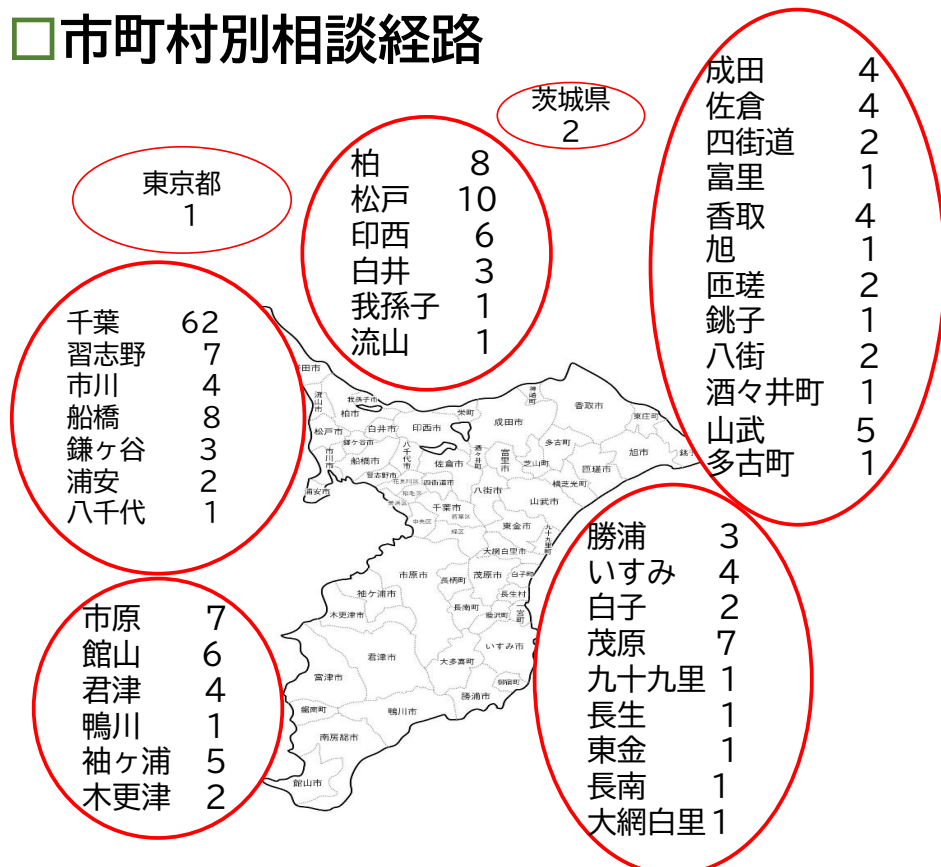
働くうえ心配なこと(複数回答)



支援機関別相談経路

	合計
生活困窮者自立相談支援機関	89
中核地域生活支援センター	19
地域若者サポートステーション	33
被保護就労支援機関	13
障害者基幹相談支援センター	5
千葉県ひきこもり・Link	5
本人	5
就労移行支援事業所	11
就労継続支援A型	1
就労継続支援B型	3
行政・障害窓口	1
学校	1
ハローワーク	4
病院	2
その他	1

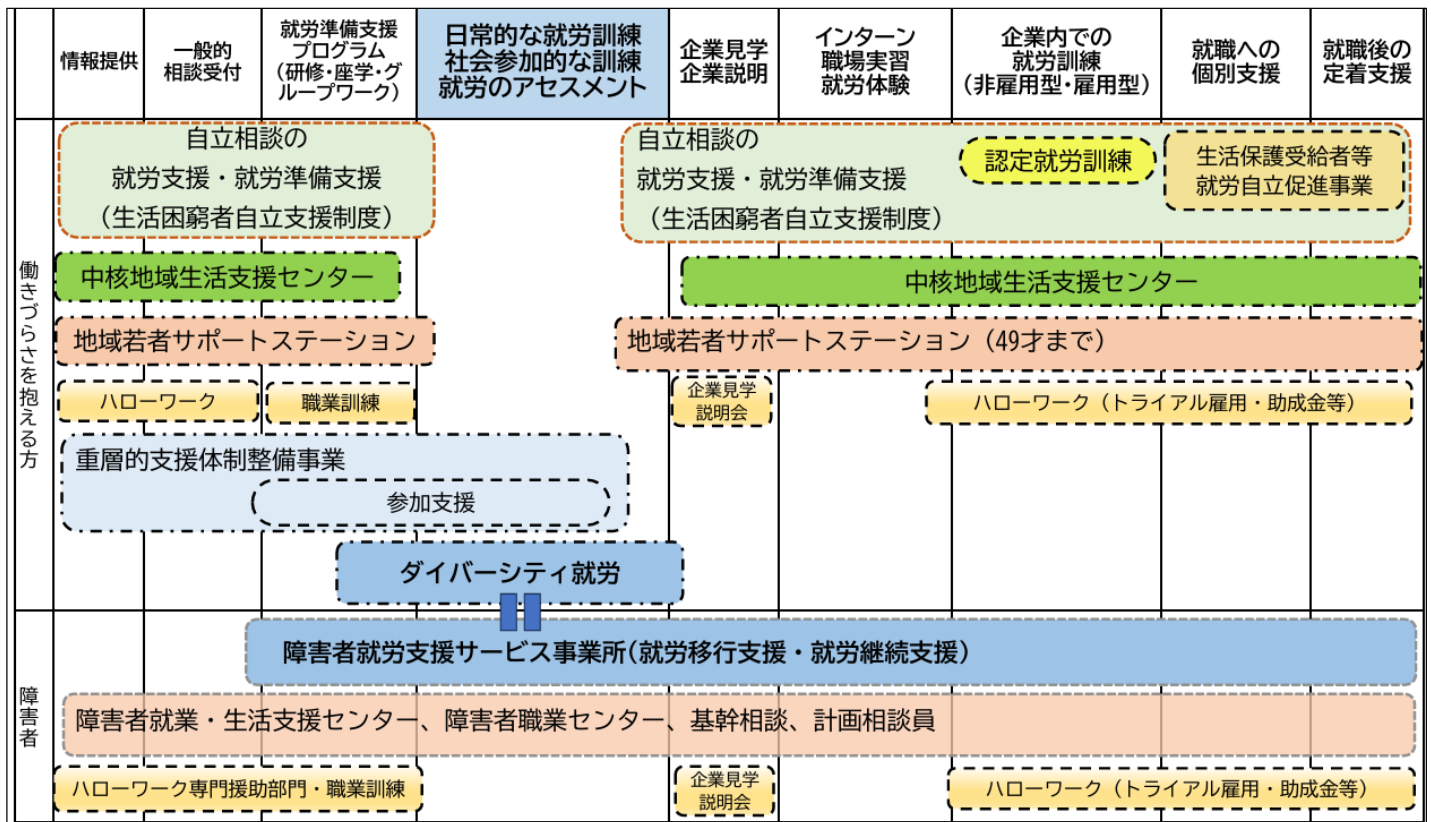
市町村別相談経路



□■□ 利用事業所別 終了者実績 内訳 □■□

利用機関	終了者	パターン① 一般就労者				パターン② 制度利用			パターン③ その他	
		就労者 (総数)	(内訳) 正社員	(内訳) パート	割合	サービス 利用	割合	利用後 就職者	就職 活動	その他
就労移行支援	23	5	2	3	21%	12	52%	3	3	3
就労継続A型	38	8	1	7	21%	19	51%	0	6	5
就労継続B型	36	5	1	4	13%	21	58%	2	4	6
一般企業	6	5	1	4	83%	0	0%	0	0	1
合計	103	23	5	18	22%	52	50%		13	15
その後の状況		退職 1名		退職 2名		就労 7名			就労 6名	
平均利用期間		4.8ヶ月		5.6ヶ月		4.5ヶ月			5ヶ月	4ヶ月
最短		2.5ヶ月		2.5ヶ月		1ヶ月			2.5ヶ月	1ヶ月
最長		7ヶ月		13ヶ月		8ヶ月			7.5ヶ月	8ヶ月

□■□ 就労支援機関・制度との連携 見取り図 □■□



利用者の声

- 意外と仕事ができるのかも。
- 対人関係も意外と大丈夫なんだと思った
- 経験させてもらって感謝している。自分を採用してもらえて、感謝している。体力面で不安もあるが頑張る
- 家にいた時はわからなかった体調の変化が分かり、難病が見つかった
- 働く自信が持てて、早く収入を得たいと思うようになった
- 仕事がうまくいかず、すごくつらい時もあったけど、働く自信ができました。頑張ります

- 正社員にはこだわらず長く働ける仕事を探したい。数字が得意ということが分かり、経理もありかな
- 不安だった体力面よりも、精神面の疲れが出て自分でも驚いた。事務よりも体を使う軽作業が向いているとわかった
- スタッフは皆優しく、相談していいんだとわかり通おうと思った
- 初めての給料で、母の日にプレゼントを買った
- 以前はあまり関係の良くなかった姉と相談して、母の還暦祝いをしてプレゼントを一緒に渡せた
- 家族を理由に働いていない状況から目をそむけていたが、まずは自分が自立することを考えることにした。収入は大事。継続して働きたい

サービス事業所の声

- 能力が比較的高く、作業範囲が大きく広がった
- 他利用者が刺激され、作業姿勢が格段に向上
- 困ったことはほぼない。
- 今後も受け入れたい
- 受け入れた方を採用すること考えています
- 事業所としてプラスになることばかり。
- 受入先が増え、働くきっかけを得る場が多くなることは良いこと

就労支援機関の声

- ❖ひきこもり者など社会経験の浅い方等へ提案ができ、就労の新たな選択肢
- ❖精神疾患はあるが「障害者」ではない方の新たな選択肢になっている
- ❖一般就労未満での就労模擬実践の場として他にない場であり、ありがたい。
- ❖事業所によっては「対価」があることでご本人のモチベーションが高まる
- ❖潜んでいるニーズを表出できる
- ❖千葉県では「モデル事業」ではなく、「既存の社会資源」になっている。
- ❖「分野横断的な就労支援」としての存在であることが大きな意味を持つ！

ダイバーシティ就労支援地域ネットワーク協議会・報告会

本事業の推進や事業進捗の共有、事業協力を広げていくため、以下の協議体を発足し、千葉県や自治体とともに事業の進捗状況や推進方法等について協議・意見交換を実施しています。また、事業成果について、年に1回、事業報告会を開催しています。

【主な協議事項】

- 実績報告および振り返り
- 利用期間、協力金について
- 具体的な就労支援、課題整理、既存制度の活用
- 認定就労訓練事業、各種雇用助成金
- 千葉県中小企業家同友会とのネットワーク 等

【協議会メンバー】

- 千葉県健康福祉政策課
- 千葉県生活困窮者自立支援実務者ネットワーク
- 生活困窮者自立支援機関
- 千葉県中核地域生活支援センター
- ハローワーク千葉
- 地域若者サポートステーション

- 障害者就業・生活支援センター
- 就労移行支援事業所、就労継続支援A型・B型事業所
- 協力企業
- 市町村関係機関 等



成果

- ▶ 「日常的な就労訓練」というスキマを埋める新たな選択肢
- ▶ 「就労の総合相談」という相談しやすさ
(これまで繋がれなかった方と繋がれた)
- ▶ 「総合的な就労支援」をテーマにしたネットワーク構築
(既存の多様な就労支援機関による協議の場)

課題

- ▶ 訓練には通えるも、求人への応募等はハードルが高い
- ▶ サービス事業所での一般就労に向けた支援内容の違い
- ▶ 仕事のスキルだけでなく、相談する力も必要
- ▶ 雇用する企業との繋がりの弱さ
- ▶ 一般的な就労以外の選択肢の提案が十分ではないだろう

□■□ これからの取り組み □■□

▶ 障害福祉サービス事業所同士の意見交換の機会

→ サービス事業所として受け入れてみての実態や工夫、悩みなどを共有する機会

▶ 一般企業との協働促進、就労支援のネットワークづくり

→ 中ポツ、サポステ、ハローワーク、協力企業、大学など

→ 中小企業家同友会などと意見交換、ネットワークづくり

▶ 多様な社会参加、行き場のコーディネート

→ 就労や制度利用が難しい利用者への新たな提案

→ 重層的支援体制整備事業の参加支援との協働

▶ 既存制度の活用促進

→ 一般就労と障害者雇用の間の「中間的就労」(認定就労訓練事業との連携)

→ 就労準備支援事業での就労体験 など

✿ ✿ ✿ ✿ ✿ ✿ MEMO ✿ ✿ ✿ ✿ ✿ ✿